

海を汚す大量のプラスチック廃棄物。

それは海のない孤野町でも他人事ではない問題です。

今一度、一人一人が地球のことを考えるとき

海洋に浮かぶプラスチック

令

和元年12月に改正された容器包装リサイクル法に基づき、令和2年7月1日から全国でレジ袋を有料化することが小売店に義務づけられました。プラスチックは軽量でありながら丈夫で、加工しやすいことからレジ袋を中心にペットボトル、食品容器、自動車を構成する部品など多方面で活用されています。そのため、世界のプラスチック年間生産量は1989年からの30年間で3倍以上にまで拡大しており、現在までに約83億トンを生産され、約63億トンを廃棄されたと推計されています。

世界の産業別プラスチック生産量では、容器包装関連の生産量が最も多く、全体の36%を占めています。そして、プラスチック容器包装廃棄量が最も多いのはアメリカですが、次いで日本となっています。不正投棄やポイ捨てされたプラスチック廃棄物は、風や雨

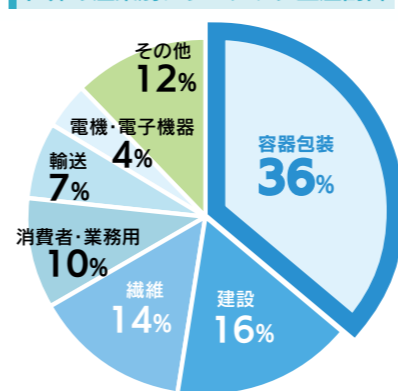
いずれは人体に影響が及ぶ

海 にたどり着いたプラスチック廃棄物は海洋を漂い、遠い国の海岸に漂着する、クラゲと誤ってウミガメが誤飲するなど環境や生物に大きな影響を与えています。特に大きな問題となっているのが、マイクロプラスチックの存在です。海を漂うプラスチック廃棄物は、時間をかけて紫外線や波によって砕かれ、5ミリの以下の微細なマイクロプラスチックとなります。マイクロプラスチックは回収が困難で自然に分解されず、

世界のプラスチック年間生産量の推移



世界の産業別プラスチック生産割合



によって流れ、いずれは海に流れ込み、毎年約800万トンの量が海洋に流出しているという試算も出ています。また、現在リサイクルされているプラスチックは全体の9割に過ぎず、現状のままでは2050年までに120億トン以上のプラスチックが埋め立て、あるいは自然投棄されるといわれています。私たちが使用したプラスチック廃棄物が環境に影響を与え、地球を汚していることは間違いありません。

まず一人一人の心掛けから

心 て、そんな問題に直面して我々はどうすればいいのでしょうか。まずは一人一人の心掛けが大切です。身近なことは、買物時にマイバッグなどを持参し、レジ袋の利用を控えて不要なプラスチック廃棄物を生み出さないことです。また、家庭の廃棄物の中でも資源物として再利用できるものは積極的に分別し、廃棄物を極力減少させることです。家庭ごとの廃棄物の量はわずかかもしれませんが、孤野町全体で廃棄物問題に取り組むためには一人一人の意識が大切です。大切な自然を守り、これ以上地球を汚さないために。皆さんのご家庭でも一度、分別方法や廃棄物について見直してみることをお勧めします。

各国のプラスチック規制

フランス

2020年1月1日以降、使い捨てのプラスチック容器について原則使用禁止。家庭で堆肥化できる生物由来の素材を50%使用する容器は規制の対象外。

イタリア

2020年1月1日以降、不水溶性の5mm以下のマイクロプラスチックを含む化粧品などの製造などを禁止する計画。違反業者には25,000ユーロまでの罰金。

サウジアラビア

厚さ250ミクロン以下のポリエチレンまたはポリプロピレンを使用した使い捨てプラスチック製品の製造・輸入を禁止。

一部抜粋

不要な廃棄物を生み出さない。地球のために——まずは各家庭から

孤野町のパッカー車に

「こもしか」が登場！

町観光協会のマスコットキャラクターである「こもしか」がプリントされたパッカー車が今年度から登場します。今回登場するこもしかは、廃棄物回収に関連したオリジナルポーズとなる予定で、町内を走り回ります。かわいいこもしかにご注目ください。



※画像はイメージです。

かわいいこもしか
お楽しみに！



有料化対象外



布製の袋



紙製の袋



微生物により海で分解される袋



植物性で環境負荷が少ない袋

地球にやさしいレジ袋は無料

「レジ袋」の種類

今回の改正で全てのレジ袋が有料となるわけではありません。厚手で繰り返し利用できるもの、微生物により海洋で分解されるもの、バイオマス素材を25%以上含むものなどはレジ袋有料化の対象とはならず、再利用や自然分解の観点から注目されています。

特集

SAVE

地球のために